

●農園部会だより 2月28日(土)

1・3・5号地の手入れを行いました。曇り空でしたが、春が近づいてきているせいか寒さをそれほど感じない午前中でした。子どもも含めて10人が集まってくれました。1号地では、玉ねぎやスナップエンドウを植えていますが、暖かくなってきたため



草引き後の1号地



堆肥を巻いた3号地

野菜の成長を邪魔する雑草も増えてきたため、小さな子どもの力も借りて草引きを行いました。3号地・5号地では、ジャガイモなどの植付けに向けて牛糞ともみ殻の燻炭をまきました。また、その他の作業としては、中学生や小さな子供たちは昆虫を探したり、大人は木の剪定や枯草の移動などそれぞれができることをして農園の時間を楽しんでいました。また農園の上の池と、4号地の湿地帯にはニホンアカガエルの卵が見つかったそうです。ニホンアカガエルは1月末から3月のきつと今まで雨が降るのを待っていたのでしょ

●里山展 ポスターづくりに中沢君と吉村君の中学生コンビが大奮闘

日曜日や土曜日でも3学期には登校日となることが多く時間の都合がかなり難しい中、里山農園で発見した京田辺市の蝶などをまとめ上げました。記録の保存の大切さを助言してきましたが、この一年間努力を積み上げて発表できるところに漕ぎつけられています。里山農園を訪れた皆さんに結果をお伝えできる資料として教材になっていくことでしょう。中央図書館での里山展で披露させていただいていますのでご覧になってください。



3月3日(火)10時から始まりました。太田播川金田森島有田大村の6人で掲示しました。ここでの作業は手慣れたもので、1時間30ほどで綺麗に並びました。

朝から予想通りの降雨になりましたが、農園での活動紹介や木津川での取組、中聖牛や竹蛇籠、そしてアライグマやイタセンパラなど里山の会が撮影した写真などがきれいに出来上がりました。そして結成30周年になりましたので年表も掲示され、ようやく竹エンピツが出来るまでの説明書も並べられました。次の日曜日(3月8日)午後15時までとされていますので是非ご観覧ください。入口に春の訪れをスイセンとツクシと菜の花、レンゲの花が迎えてくれて心を癒してくれています。心憎い演出がされています。

●公立鳥取環境大学の山田康介さんからサンショウウオの保全活動の現状とする卒業論文が里山の会に届きました。

全国的に減少している原因は①里山の荒廃による産卵場所の消失、②開発による生息場所の消失、③外来種の侵入による影響、④在来の哺乳類による環境悪化、⑤成体、卵囊の乱獲が要因とされています。そして「活動者の高齢化・人材不足」「耕作放棄地の増加」「過去の蓄積データ

の不足」「若い研究者の不足」「資金の不足」「保全団体が少ない」といった課題が明らかになったと指摘されています。やましろ里山の会が直面している課題がそっくり重なっていました。貴重な研究でもありますのでお読みいただけるようでしたら事務所までご連絡をお願いいたします。

●京都植物同好会から第36巻目の冊子が届きました。ご覧を希望されます方には里山の会事務所までご連絡をお願いいたします。1949年に村田源先生等によって発足されたと記されています。現在代表は光田重幸先生が大役を果たしておられます。また事務局に里山の会とお馴染みの大本花明山植物園(亀岡)の澤田徹さんもお活躍されています。



●2025年度第3回目の理事会を3月28日(土) 13:00~16:30まで里山の会事務所で開催

2025年度は異常な暑さの夏でした。そして秋もあつという間に過ぎ、冬は降雪がありましたが雨が昨年と同じように大変少なくヤマトサンショウウオの産卵を見つけられません。そして2月に25度を記録するなどとんでもないな年度です。里山の会は岩佐英夫新理事長の下で1000人以上のご参加を得る活動を実行できました。特に木津川出張所長の西田様のご奮闘で将棋頭水制を玉水橋上流に設置できました。新年度は結成30周年記念式典を11月14日に開催する意義ある年の始まりの理事会ですので理事各位も欠席なきようご出席をお願いいたします。

●3月7日(土) 13時から京田辺市中央公民館で第30回里山環境講演会を開催いたします。

講師は大阪公立大学客員研究員の竹門康弘氏で、これまで木津川で竹蛇籠や中聖牛の設置をご指導いただきました。賀茂川などでの魚道設置運動や大阪湾から遡上するアユの研究を進め、「京の川の恵みを生かす会」の代表や、深泥池での活動を進めておられます。先般住居を井手町に移して日夜木津川に足を運んでおられます。大阪湾に戻ってくるアユの仔魚の8割が木津川産で圧倒的(御幸橋での調査結果)だと明らかにされています。山城地域ではお聞きでないお話ではないかと思しますので、ぜひお越しください。参加費無料で開催いたします。

第30回 里山環境講演会

一般市民は国交省の管理下にある一本1車を持ち出しても持ち込んでもならないというのが、
 料とされてきました。
 里山の会の観望・調査の結果11箇所の植物が存在していることを確認し、経営者にLEDライト・
 プラックで照らされた植物の存在が明らかになり野鳥の観察が容易になりました。一方河床の崩
 壊が激しく河床低下などで、魚類や鳥類が減少し水質の悪化と共に改善されたといっても子魚
 たちと魚との関係が得られなくなりました。そのために河川敷の洪水で流された
 流石を利用した伝統的河川土木である竹蛇籠の利用を国交省木津川出張所に働きかけて中聖牛
 や特設調整水樋工を2015年から15箇地点を中心に製作設置を行ってまいりました。この活動は京
 都大学防災研究所の指導で取り組み、住民(里山の会等)が力を合わせ、管・学・民の共同で
 川管理(住民による川作り)として実行されてきました。この取り組みを顕彰し現場で導
 かれたのが竹門康弘先生です。取り組んで10年が経過し全国的に講演が広がり西
 の地方から高い関心で受講がもたらされています。今後の講演はご要望とご協力をいただき
 木津川が全国的に果たす役割などを語り合えたいと思っております。
 現在天徳記念館に指定されて日本で3か所(福井県・岐阜県・大阪府)にしか生息していない
 イタセンバラの復元を山城地方の木津川で実現できないかとさきやかに18年取り組んでいます。
 出来れば協力をお願いしたいわいいます。

3月7日

京田辺市中央公民館

講師 竹門康弘

現 大阪府公立大学客員研究員 理学博士
 川の恵みを生かす会 代表

木津川を身近な川に

参加費無料 参加申し込み 住所 氏名 電話番号まで f66w27@nabha.co.jp まで 788部
 主催 特定多量消費活動法人やましろ里山の会 京田辺市田辺深田15
 後援 京都府 国交省 環境省大阪事務所 京田辺市 京都府教育委員会(申請中)
 京田辺市市民センター 京都水産館

「京田辺は自然の宝の山」NPOやましろ里山の会による地域説明会が2月15日(日) 一休ヶ丘公民館で行われました。「国蝶オオムラサキの発見」「ヤマトサンショウウオの発見」「木津川の生育植物」などがパネル展示され来観された皆さんは自然の豊かさに見入っていました。



●去る2月15日一休ヶ丘公民館で里山の会が開いた地域説明会を一休ヶ丘自治会たより3月1日号で写真付きで様子が報告されました。

回覧板で開催予告案内を行っていただいた上に結果を記事としてお知らせくださってありがとうございます。一休ヶ丘自治会は田辺町の時代に茶園畑などを宅地化して町営住宅が最初に建設された地域の一つで、住民の皆様は先陣を切って子ども会や老人会活動などで地域づくりをみんなの協力で進められてきた伝統をお持ちの地域です。この度展示発表の会場を快く借用させていただき大変ありがとうございました。

